



森下 義昭 議員 … 1 件の一般質問

まちづくり懇談会のあり方

町長：多くの町民と懇談できるよう取り進めていく

森下

平成28年度のまちづくり懇談会が、それぞれの時間帯で10カ所行われたが、今までの状況を踏まえ、多くの住民に参加を願う気持ちで時間帯等を考えながら行った訳だが、以下について町長の意見を伺う。

- ①各会場の参加人員と、参加者からの質問で、後日の検討事項として回答したのはどうなっているのか。
- ②まちづくり懇談会は今後も継続するのか。
- ③継続の場合、会場の増加や時間帯を今後どうするのか。
- ④開催に際し、町民への周知をどのようにして参加者を募るのか。

町長

まちづくり懇談会は、現在進めている事柄の状況など、直接町民の皆さんへ説明を行い、理解を深めてもらい、対話を通して意見等を伺うなど、今後の町政運営に反映させていくことを目的として開催している。立場や組織などの垣根を取り払い、より忌憚のない意見を伺うべく車座

懇談会とでもいうか、スクリーンや資料をなるべく使用せずに目線をそろえた懇談の場に、町民との意見交換や懇談が活発に行われ、今後のまちづくりを共に進め実現していく有意義な時間となった。

①各会場の参加者数は、中小企業センター7名、南地域会館7名、八幡地域センター9名、高砂地域センターは0名、東部地域会館7名、サン・スポーツランド17名、北地域会館14名、東地域会館9名、克雪管理センター16名、琴和福祉会館44名で合計130名となった。また、全会場を合計すると93件の質問があり、そのうち半数以上の48件は、検討という文言を含むか、それに類するような回答をしている。そのほとんどが、将来へ向け長期的視野を持つて検討すべきもの、予算を伴うもの、あるいは新幹線や高速道路関連など、全容がまだまだ不透明な部分も多いことから、具体的な回答はすぐにはできるものではない。

一方で、将来に向けた関心を強く感じることで、大変収穫があったと捉えている。

②私が直接町民の皆さんへ説明を行い、対話を通して意見等を伺うなど、今後の町政運営に反映させて行く観点から、今後とも継続して開催していく考えだ。

③と④は一緒の答弁となるが、開催時期や時間帯はもちろん、積極的に内容をアピールし、今までの定例開催の形態で行っていくほか、希望を伺って地域の行事などに合わせて出向くなど、多くの町民と懇談できるように検討し、取り進めていく。

森下

まちづくり懇談会は継続していくという事で承知した。

事前に各町内会に通知をし、周知してもらおうことも必要ではないか。

更に、終了後、町民に全容を知らせることも必要ではないか。

町長

今回、2会場増やして10会場にした中で、どちらかというと

日中の時間が多く、夜の開催がほとんどなく、地域との話し合いの中で時間を設定したわけだが、集まりやすい時間帯をもう一度見直さなければならぬ。

会場も、それぞれのエリアを中心に設定したが、今一度、開催場所も、今までのエリアにこだわらず、どれだけ参加者を増やすかというのは、今回の反省としている。

また、事前に各町内会に課題・問題について、持ち寄ってもらいたい懇談会でしたら、より各地域の町内会役員含め、町民も参加するのではないかと。町内会を通じて、町長との懇談を聞こうとか、意見を言おうという形で呼びかけしてもらえば参加者が増えるというふうに思う。

良い事例としては、琴和福祉会館で、町長の意見をもっと聞こうとの呼びかけから集まったものだ。ああいう形が非常に良いと思うので、是非、他の町内会にも呼びかけをして、より多くの方に参加してもらいながら、

懇談の輪を広げていきたい。

懇談会の内容について、広報では限られた紙面であるので、それらの情報についてまとめて広報に挟むと相当分厚い部数になる。その手法については要約版で流しつつ、また、町のホームページ等に、こんなことがあったというのを詳細に流す手法もあると思うので、今後、部内で情報の発信について詰めて、町民の皆さんにできるだけ、今年の懇談会はこんなことであったと全体的な情報として発信したいと思う。

森下

あくまでも行政側、自分たちが動くことを惜しまず、そして、町民のためにいかに真心が伝わっていくかという行動をしてもらいたい。

また、ホームページという事もあったが、全家庭がインターネットで見られるわけでもない。資料を作っただけで読み取れない、意見をもらう方法も視野に入れてもらいたいと思う。